

### 第3回「CHUO Diversity × ハラスメント防止啓発 Week 2020」が終了しました（開催報告）

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、すべての企画が Web 上での開催となりましたが、高校生、一般市民の方、他大学、海外の研究者など、大勢のみなさんにお集まりいただくことができました。来年度以降も継続して開催していく予定ですので、ぜひご期待ください。

- 2020/11/16（月） 映画「わたしの描きたいこと 絵本作家クオン・ユンドクと『花ばあば』の物語」  
100名ちかくの参加がありました。  
「ディスカッションやリサーチ等の出発点になる、さまざまな視点から学べる作品だった」  
「今回この映画を見て、今までリアルに感じることのなかった慰安婦側の目線をわずかでも知ることができ、考えを深めるきっかけになりました。」
- 2020/11/18（水） 二羽泰子氏（東京大学大学院教育学研究科助教）講演会「インクルーシブな学校をどうつくるか——みんなのキャンパスをめざして」  
一般参加も可能な公開講座として開講しました。関西圏などを含む学外からの参加も含めて、50名ほどの参加がありました。  
「インクルーシブな学校とは、限られた人のためのものではなく、皆のためのもので、互いに協力してつくり上げていくことが大切なのだと思います」  
「当事者の子どもたちやその保護者の方々にも協力を求め、共にインクルーシブな環境を作り上げていくという取り組みに非常に感銘を受けた。安易に当事者を排除して進めてしまう傾向をまずは捉えなおさなければ、と思いました。」
- 2020/11/19（木） ハラスメント防止啓発講演会 小田陽平氏（弁護士）「外国人の法律問題—多様な国籍の人と共に生きる—」  
こちらも公開講座として開講し、約80名の参加がありました。  
「ふだん外国人の法律問題については憲法で習うことがあっても、実際にはどのような問題があるかを弁護士の方に聞く機会はなかなかないので、今回の講演はとても有意義だったと思う。」  
「難民というあまり馴染みのない話題について知ることができ、多くの人が外国人であることなどの問題から解放されれば良いなと思いました。」
- 2020/11/22（日） Human Library –「本」人の話を聞く—  
ダイバーシティ&インクルージョンをテーマとした法学部のゼミが企画と運営を担いました。今回、8人の、さまざまなマイノリティ性を持つ方々に「本」役を担っていただきました。  
「今までこういった問題に対して、自分とはどこか違うし、「解決」できるものではないと思っていた。しかし、当事者たちは「解決」を求めているのではなく、みんなからの「理解」を求めていることに気が付いた。」（参加者）  
「世間では、「障害者」＝「かわいそう」というネガティブなイメージで捉えられがちですが、それは障害についてよく知らない人の勝手な思い込みであることが、今回当事者の方のお話を聞くことで初めて分かりました。こうした認識の違いというものに気づかされた、という点で、今回のヒューマンライブラリーに参加した意義はとても大きかったと思います。」（参加者）

「最初は緊張していましたが、皆さんが真摯な態度で聞いて下さり、それにとっても勇気づけられました。また、想定していない質問を頂いた時には自分も改めて考えさせられ、学ばせて頂きました。」(「本」役)

「自分を客観視でき、同時に開示的にもなれた。」(「本」役)

- 2020/11/24 (火) 映画「一粒の麦 荻野吟子の生涯」

日本で最初に女性医師となった荻野吟子の伝記的映画には、およそ 40 名の参加がありました。

「主人公が直面した、一方的に「こうあるべき」という考え方は、ジェンダーの問題だけでなく、色々な場面で葛藤(衝突・対立・分断?)を生み出す根源だと考えます。問題の本質を捉え、柔軟な考え方ができる(又は受容できる)ようになりたいです」

「荻野吟子さんの生涯があったからこそ、今の女性が生活しやすい社会になったのかなと思います。しかし、同時に、当時、女性は結婚や妊娠、出産、家事、育児のほとんどを任せられていましたが、今もなおその状態が続いていることにやはりもどかしさを感じました。」

- 2020/11/25 (水) 犯罪被害防止講習「その時、あなたは自分を守れますか? 一痴漢、性犯罪、ストーカー、デートDV」

ニュースを賑わす様々な犯罪に巻き込まれないためには、どんな点に気を付けたら良いのか、またその危険を回避するためには何が出来るのか。その実践的な講習に約 40 名の参加がありました。

「犯罪が自分の想像以上に、身近にあるということに驚きました。また、状況に応じた具体的な対策を教えていただけたので、万が一自分がそういった状況に置かれたとしても、講習を受ける前よりかは冷静に対処できるのではないかと思います。」

「[姿勢よく立つ]、[違和感を感じたら逃げる]。これらのことは、直ぐに実践できる簡単な方法なので、これからの生活に活かしていきたいと思います。」

- 2020/11/26 (木) 「学部留学生と話そう 留学生座談会」

ふだん意外と交わることの少ない学部留学生と日本人学生約 50 名が参加して、いろいろなテーマについて話し合い、相互の理解を深めました。

「日本人学生も留学生も、多くの人がお互い交流与合作したいと思っているということを改めて気づかされた座談会でした」(日本人学生から)

「最も印象的だったのは、「共生」実現のために、留学生だけではなく、日本人学生も一緒に参加できる講座を作る提案が出たことでした。私にとって今回の座談会は、中大の多様性を構築するための本当に貴重な経験でした。」(学部留学生から)

- 2020/11/27 (金) 砂川秀樹氏 講演会「多様な私たちが多様に生きられるために」

一般からも参加いただける講演会と、その後の本学学生教職員によるワークショップを連続して開催しました。約 230 名の参加がありました。

「以前から性的マイノリティについて調べていたが、疑問や言葉で表現できないモヤモヤのようなものを感じていた。今回の講演を聞いて整理がついたのでとても良かった。」

「海外に住んでいた時に自分はマイノリティだった。その頃にそこで生じた自己嫌悪や感情の抑圧に関しては、性的マイノリティの方に生じているものと共通性があるように感じた。」

- 2020/11/28（土）懇談会「みんなで語る中大ダイバーシティ」  
約 40 名の学生、教職員が、それぞれが思い描く中央大学や、心地の良いダイバーシティ環境について、2 回のセッションを重ねました。  
「自分とは全く違う意見や考えていない意見が聞けて、気が付かなかった視点を自由に話す時間でとても充実していました！」  
「ふだん話すことのできない教員の方々と話す貴重な機会でした。今回のような堅すぎない雰囲気だと参加しやすいと思います。」